

第2回770のひな人形展

～約千体に驚きの表情～



2月23日(土)：フォーラム七尾

春の訪れを告げる「770のひな人形展」。今年は、中心市街地の商店にも、ひな人形が飾られた。メイン会場のフォーラム七尾では、24段飾りに約1千体がずらりと並び、訪れた人は驚きの表情。ひな人形は、主に北陸三県から寄贈を受け、中には100年以上前の人形も飾られている。寄贈者からは、多くの人にひな人形を見てもらいたいとの願いが込められている。ひな人形展が、街中のにぎわいづくりにつながることを期待したい。

年長さんを迎える会

～先輩になる心の準備～

3月4日(月)：小丸山小学校

小学1年生が、4月から小学校へ入学する園児とふれあった。児童が園児の手を引いて、図書館や職員室を案内。体育館では、一緒におにごっこをしたり、なわ跳びを園児に教えたりと楽しんで遊んだ。初めての学校訪問に不安な園児の表情は、いつの間にか笑顔に。児童からは「4月から運動場や図書室で一緒に楽しみましょう」とあいさつがあった。園児とのふれあいを通して児童は、先輩になることの心の準備が出来たのでは。



開通前の能越道を歩こう

～心地よい汗を流す～



3月17日(日)：能越自動車道

3月24日に能越自動車道七尾大泊ICから七尾城山ICまでが開通するのを前に行われた、ウォーキングイベント。歩けるのは今日だけとあって、市内などから約300人が参加。約2時間かけてゴールの七尾城山ICを目指した。快晴に恵まれ富山湾の絶景を眺めながら、それぞれ思い思いのウォーキングを楽しんだ。参加者は「めったにない機会に参加することができてよかった」と笑顔で話した。参加者は、心地よい汗を流し思い出を作ったのでは。



2月25日(月)：七尾市役所

食料品の宅配事業を手がける「生活協同組合コープいしかわ」と、災害時に食料品などの生活物資の提供を受ける協定を結んだ。災害時に円滑な救援活動ができるようにするのが目的。これまで福祉や建設業などと協定を締結してきたが、物流業との協定は初めて。コープいしかわの長谷川理事長は「普段から防災、減災の準備をしなければならない。できることは対応していく」と力強く話した。災害への備えがまた一歩進んだ。

災害時における支援協力の協定
 ↳物流業との協定は初



2月20日(火)：七尾市役所

市としては初となる観光交流都市協定を長野県飯山市と締結。きっかけは、両市が加盟する寺町サミット「寺院群都市会議」や、平成20年から飯山市の高校生が能登島へ臨海実習に訪れていること。調印式で、飯山市の足市長は「七尾は、海の観光資源があつてうらやましい。まずは市民同士の交流を深めたい」と抱負を語った。新幹線がつながることで両市の距離が縮まり、交流がさらに深まることを期待した。

長野県飯山市との観光交流都市協定調印式
 ↳まずは市民同士の交流を



2月28日(木)：恵寿総合病院

市は、社会医療法人財団薫仙会、社会福祉法人徳充会と、災害時の避難生活に配慮が必要な高齢者や、障がい者などを施設に受け入れる協定を締結。障がい者を受け入れる施設との協定は、今回が初。福祉施設との協定は、今回で7法人目。合計20施設、1,167人の避難者が受け入れ可能となった。両法人の神野正博理事長は「日ごろからの地域との結びつきを大事にしたい」と力強く話した。災害時に避難者が安心して過ごせる環境が整いつつある。

市内2福祉法人と災害時の協定を締結
 ↳障がい者受け入れ施設は初



2月28日(木)：西村さん宅 (舟尾町)

トヨ子さんは3人の子どもに恵まれ、今では孫6人、ひ孫10人がある。背筋が伸び、足腰が丈夫で、一人でも杖を使わず歩けるほど、健康に過ごしている。90歳以前は、旅行好きで北海道や沖縄県などへ行ったり、畑仕事をしたりしていた。次女の宣子さんは「好き嫌がなく家族と同じものを食べていたことが、長寿の秘訣かもしれない」と話した。肌の艶がよく、笑顔で対応してくれたトヨ子さん。これからも元気で長生きしてください。

100歳誕生日おめでとうございませ
 ↳西村トヨ子さん



3月18日(月)：七尾市役所

能登島で農業を営む高博子さんが、農山漁村男女共同参画優良活動表彰の「農林水産大臣賞」を受賞。生産者の立場から食育への取り組みや消費者との交流活動に活躍。中核的な農業者で組織する団体の女性部能登島支部長を務め、女性メンバーへの呼びかけにも貢献してきた。経営では、全国のレストランや百貨店に野菜を納入したり、野菜の加工も手掛けたりしている。高さんは女性リーダーとして、農業の次世代をリードしている。

農山漁村男女共同参画優良活動表彰受賞
 ↳高博子さん



3月15日(金)：秀楽苑

目じりの笑いじわが印象的な美(よし)さん。70歳頃まで養鶏場に勤めていたり、中島菜などの青物野菜を作ったりと忙しい日々を過ごしてきた。手仕事が好きで、最近まで子どもや祭り関係者に喜んでもらおうと手作りのわら草履をプレゼントしてきた。美さんは「ありがとうございます。いつまで生きるかわかりませんが、よろしく願います」と市長の手をしっかりと握りにこやかな顔に。これからも元気で過ごしてください。

100歳誕生日おめでとうございませ
 ↳奥美さん